

毎月**1**日はあずきの日。

7月**1**日は井村屋あずきバーの日。



あずきの花  
(北海道十勝小豆農場)



第**72**期  
報 告 書

平成20年4月1日 ▶ 平成21年3月31日

**Be always for Customers!**

(このポリシーはいつでもお客様の立場に立って  
お客様のことを意識し、行動しようとの意味です。)  
私達はこのポリシーを守ります。

 **井村屋製菓株式会社**

# 目 次

- 1 株主のみなさまへ
- 2 営業の概況
- 4 連結財務諸表
- 6 個別財務諸表
- 8 トピックス
- 10 商品のご案内
- 12 井村屋グループの概要
- 13 株式の状況・会社概要

## 第72期(平成21年3月期)

### 収益面における改善

#### 新取り組み制度の推進による取引制度の変革

取引制度の見直し、返品削減による利益率の改善  
(前期比 73 百万円 改善)

#### SCM活動の取り組みにおけるオペレーション改革・改善

生産リードタイムの向上による在庫の引き下げ  
(前期比 175 百万円 改善)  
廃棄物の発生抑制(前期比 143 百万円 改善)

#### LMM(ロス、ミス、ムダ)取り運動の取り組み

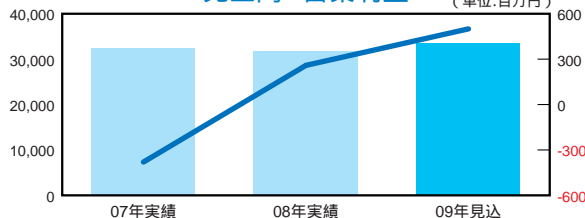
各部門における販売費・一般管理費の引き下げ努力  
各工場での製造効率向上努力(前期比 112 百万円 改善)  
製造原価の引き下げ(前期比 2.3% 改善)

[第72期の井村屋グループ取り組みにおける成果]

連結営業利益 259 百万円(前期 380 百万円)  
連結経常利益 302 百万円(前期 331 百万円)  
連結当期純利益 111 百万円(前期 378 百万円)

### 売上高・営業利益

(単位:百万円)



	07年実績	08年実績	09年見込
売上高	32,397	31,688	33,500
営業利益	-380	259	500

## 第73期(平成22年3月期)

「具体的経営実行項目」を達成することにより着実な進化へ

### 3つの活動基準

「凡事徹底」

細部を疎かにせず、当たり前のことを当たり前徹底する。

「至誠通天」

利他を考え、ステークホルダーの皆様常に誠実な心で経営を行う。

「根本・基本を大切に」

混迷・不明の時代であるからこそ基本を振り返り確認する。

### 継続する実行項目

1. 品質重視の経営

「安全品質達成」に向けた活動を強化する。

2. 無駄排除活動

SCM活動・LMM取り運動による、更なる改善・成長を図る。

3. 新取り組み制度の実行

加工食品に加え「冷菓・加温」商品を軌道に乗せる。

### 新挑戦する実行項目

4. グローバル経営の強化

和のグローバル化を目指す。

5. グループ経営の充実

多くの機能を一体化し、シナジー効果を発揮する。

6. 新しい革袋には新しい酒を!

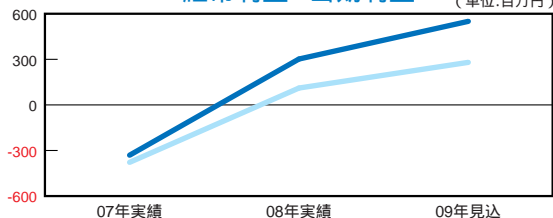
システム、機能、人材すべてに新しい仕組みを創造する。

7. 技術を活かす経営

あらゆる部門、分野において「技術」を重要視する。

### 経常利益・当期利益

(単位:百万円)



	07年実績	08年実績	09年見込
経常利益	-331	302	550
当期利益	-378	111	280

## 株主のみなさまへ

株主のみなさまには、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

平素は格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

第72期(平成20年4月1日～平成21年3月31日)を終了し、報告書をお届けするにあたりご挨拶を申し上げます。

第72期の業績につきましては後掲の「営業の概況」に記載しておりますが、様々な経営課題の解決を目指して取り組んでまいりました諸施策の成果として損失から黒字へと変革することが出来ました。

昨年から続くグローバルな経済不況は、当社グループを取り巻く経営環境にも影響を与えております。

一刻たりとも企業活動の停滞が許される状況ありません。

常に変化に向かって挑戦し続け“サステナビリティ(持続可能性)”ある発展を目指してまいります。

その実現のために第73期におきましては、前頁に記載いたしました活動基準、具体的実行項目を掲げました。井村屋グループとして確実に実行し利益体質を継続させ『着実な進化』を図ってまいります。

株主のみなさまにおかれましては、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。



取締役社長

## 浅田剛夫

平成21年度の位置づけ

平成21年度は中期3ヵ年計画の最終年度にあたる。

常に変化に向かって挑戦し続けサステナビリティある発展を目指す。

ビジョン

「和と自然」の味を食に生かし、楽しさと健康に寄与する食メーカーを目指す。

スローガン「温故知新」「不易流行」  
過去より継続された多くの経営財産の根幹の重要なモノを守りつつ、時代の変化に的確にスピーディーに対応する。

基本テーマ「特色経営にこだわり、磨く」  
さらなる継続と成長をはかるために私たちの特色にこだわり、磨くことで、企業価値を高める。



## 営業の概況

### 営業の概況

当社グループにおいては、第72期(平成20年4月1日～平成21年3月31日)を前2期の経常赤字からの脱却を目指し、中期計画の2年目として食糧・食品に関わる多くの課題を克服する「Epoch Year」として位置づけて活動をしてまいりました。

多くの困難はありましたが、グループ各社や部門間の「つながり」を追求し、品質重視の経営と徹底したコスト削減、お得意先様との取引の制度改革などを経営目標として掲げて努力してまいりました。その結果、期初の目的には達しませんでした。が、回復への明るい兆しが見え、進化する節目の1年となったと確信しております。

組織面では、前期の大きい損益悪化要因であった製商品や原材料の廃棄ロスなど「無駄」による利益流出を最小とするため、調達・開発・生産・ロジスティックス・マーケティング・管理のSCMサイクルを作り上げるために「SCM統括部」を設置しました。

また、井村屋グループとしては、平成18年11月に中国における和菓子の生産・販売拠点として設立した井村屋(北京)食品有限公司を完全子会社とするなど、新しい経営環境の基礎固めを行ってまいりました。

売上面におきましては、上半期における7月の猛暑に恵まれた「あずきバー」を中心としたアイスクリームや、「氷みつ」などの夏期商品、調理の簡便性が消費者に受け入れられた「お赤飯の素」などが堅実に伸長しました。下半期には消費者心理の悪化傾向が続く中で、タスポ効果によるコンビニエンスストアの堅調な売上高に支えられて、ここ数年漸減していた「肉まん」「あんまん」の加温商品は価値を上げ、価格を改正したことにより前期を上回ることができました。

一方、当期値上げをいたしました「水ようかん」等の菓子商品や一時のブームが去った「寒天商品」等のDCデザートが減少し、平成20年8月にアンナミラズ赤坂店を退店したフードサービス事業や健康食品・機能性食品の受託商品売上が減少した調味料事業などが影響して、当連結会計年度の売上高は316億88百万円(前期比97.8%)、個別での売上高は298億73百万円(前期比97.0%)となりました。

収益面におきましては、新取り組み制度の推進による取引制度の変革や返品削減による利益率の改善に加えて全社でSCM活動やLMM(ロス、ミス、ムダ)取り活動に取り組んだ結果、棚卸資産処分損の前期比1億43百万円減少(対売上経費率0.5%)、運賃・保管料の前期比1億75百万円削減(対売上経費率0.6%)となって表れました。

生産活動における経費についても、上半期の原油価格の急騰で燃料、電力料の負担はありましたが、各工場の努力で人件費の削減効果が1億12百万円あり、加えて修繕費や減価償却費、リース料などの減少もあったため、製造原価を前期比2.3%引き下げることができました。

主力原料である小麦粉は輸入麦の政府売渡価格の改定に

伴い、4月の改定で30%、10月の改定で10%価格が上がりました。豚肉につきましても世界的に品薄状況で推移した1年であり、また中国四川省の大地震以降中国が豚肉を緊急輸入したことで品薄状況に拍車がかかりました。乳製品や他の原料につきましても上半期から値上がりで推移しており、コスト高の要因となりましたが、下半期後半には各原料ともに押しなべて下落傾向になってきています。

フィルムや段ボールなどの材料関係においても、ナフサ価格や古紙価格の上昇などがコストアップに影響を及ぼしてきました。

以上の結果、連結売上高は前年を下回りましたが、連結営業利益は2億59百万円(前期は3億80百万円の損失)、連結経常利益は3億2百万円(前期は3億31百万円の損失)と前期比で大きく回復することができました。連結当期純利益は、税効果会計による法人税等調整額の計上などがあり1億11百万円に止まりましたが、前期3億78百万円の損失から黒字へと変革することができました。

### 事業別の状況

#### < 流通事業 >

当期の流通事業はマーケティング力を強化し、商品の価値と価格の整合性見直しと同時に、取引の明確化をはかり、お客様に商品の良さを知っていただく活動に力点をおきました。

販売戦略の大きい改革として「新取り組み制度」移行を計画し、菓子食品は72期4月より決着価格制に移行して取引の透明化・見える化を実行しました。冷菓・加温の低温商品については72期中に準備を終え73期4月より新取り組み制度をスタートしております。新取り組み制度のなかに組みこまれた返品削減は前期比73百万円(50.2%)の実績となり大きい成果を挙げ環境貢献にもなりました。

つながり経営実現の為にシステム思考を取り入れ、新設したSCM統括部主導のもと、それぞれの業務に連鎖性を持たせるために社内インフラを活用した「見える化」を進め、調達・開発・生産・ロジスティックス・マーケティング・管理の各部門が協業し、在庫削減・廃棄物発生抑制等「無駄」による利益流出を排除し、2億69百万円の削減効果を計上しました。

このような活動の結果、流通事業全体の売上高は263億1百万円(前期比99.7%)となりましたが、価格訴求販売型から価値訴求型への変革が進み、営業利益の改善をすることができました。

#### (菓子・食品)

菓子につきましては、主力のようかん・水ようかん・ギョト商品など全般に価格改正したことも要因となって販売数量が減少し菓子全体で前期比89.6%になりました。水ようかんは前期比83.3%、和洋単品も80.7%と不振でした。しかし年間商品であるようかんはCVSを中心とした定番売場を獲得し、また賞味期限の長い



新商品である防災対応型ようかん「えいようかん」の新規売場獲得もプラスし、大きな落ち込みにはなりませんでした。

食品につきましては全般に価格改正、販売条件の見直しを行い、全体では前期比101.2%となりました。「シロップ」は夏場の好調と下期の返品大幅削減効果があり前期比118.0%、また、「お赤飯の素」を中心とする調味食品も前期比110.0%と大きく伸長しました。子会社である日本フード株式会社においてもOEM受託商品が伸長しました。

#### <冷菓・加温・デイリーチルド・冷凍菓子>

冷菓につきましては、最盛期の夏場に記録的な猛暑の影響もあり好調に推移し、前期比107.2%と伸長しました。最中などの和風商品のシェア拡大戦略、主力商品の「あずきバー」「ミルク金時バー」「宇治金時バー」の3品をTV-CMの集中投下によって販売効率を高め好調に推移しました。さらに冬期では初めて12月に「あずきバー」の消費者キャンペーンを実施し、秋冬期における和風バー商品の底上げを図りました。その結果「あずきバー」は前期の記録的な売れ行き(年間販売本数1億77百万本)をさらに上回る1億91百万本(前期比107.7%)の売上を達成しました。姉妹品である「ミルク金時バー」「宇治金時バー」を含めると念願の2億本の大台を超える2億3百万本に達することができました。

加温商品は主要原材料の高騰を受けて商品の価値と価格の見直しを行い、前期比100.6%とわずかですが前年を上回りました。

デイリーチルド商品は全体で前期比83.7%となりました。「やわらか寒天」や「おいしく飲める寒天」が寒天ブームの沈静化や他社の参入に伴う価格競争激化もあり前年を大きく下回り、前期比48.3%でした。しかし「豆腐」においては秋冬期に新しく「大豆屋和蔵」の新ブランドの投入があり前期比100.3%を確保しました。「チルドまん」は価値の見直しをするとともに価格を改正しましたが、競争が激化し、前期比97.8%となりました。

冷凍菓子事業は9月より全国展開を実施しました。冷凍食品売場特有の特売価格政策をあえて避ける手法での展開を図り、新市場拡大の努力をしましたが、計画達成には至りませんでした。しかしながらその結果を踏まえて73期は市場に適應できるよう商品の規格を見直し、魅力ある冷凍菓子販売を強く推進してまいります。

#### <フードサービス事業>

アンナミラーズにおきましては、昭和49年以来営業してまいりました赤坂店を8月に閉店いたしました。また、高輪店、ランドマーク店では、ディベロッパーであるショッピングセンターが景気低迷による集客力の減少もあり、苦戦を強いられました。その結果売上高は4億43百万円(前期比

83.5%)となりました。

ジュウォーにおきましては、新しいブランドの流通商品化も目指し、流通各社とのコラボレーションを行い、ジュウォーコーナーを持った新店舗に参画、また大手量販店とのテスト販売を実行し、好評を博しました。店舗におきましても既存店は前期比102.4%と伸長させ、催事販売を合計した売上高は2億13百万円(前期比104.5%)と伸長いたしました。

以上の結果、フードサービス事業全体の売上高は6億52百万円(前期比89.0%)となりました。

#### <調味料事業>

売上面では安価な醸造醗酵商材等が大きく伸長したものの、高価格帯の商材を伸ばし切れず、前年度に貢献度が高かった機能性食品や健康食品等の落ち込みを補填できませんでした。また、上半期までは中国食品による食中毒事件の影響があり、製品の輸入遅延による販売機会損失が発生しました。

売上の減少に加えて原副材料の値上げや動燃費の高騰に対して、お客様に適切な販売価格の改正を積極的に進めましたが、十分に満足できるレベルではなく原価高の解消には至りませんでした。

以上の結果、売上は46億93百万円(前期比89.5%)となりました。

#### <その他の事業>

その他の事業(イムラ株式会社)は、従来からの賃貸住宅ヴィルグランディールの管理業務、保険代理業、リース代理業、クリーニング・宅急便の取り次ぎ業務に加えて、井村屋製菓の規格外商品を販売する「MOTTAINAI屋」を定期的に開店しておりますが、当期は開催回数の増加や地域住民の皆さまの口コミ、あるいはマスコミで取り上げられたことも重なり、前期比2倍以上の売上となりました。

以上の結果、売上高は40百万円(前期比122.2%)となりました。

#### 次期の見通し

コスト面では人件費等の増加要因はあるものの今期に効果が表れたSCM活動やLMM取り活動の更なる推進による、棚卸処分損や運賃・保管料の削減、原価管理の強化による製造経費率の改善に取り組んでまいります。経常利益段階では賃貸事業の収入も加え、グループ企業の相乗効果を高めながらグループ経営の充実を図り、次期に利益体質を継続させていきたいと考えており、通期の業績につきましては、連結売上高335億円(前年同期比5.7%増)、連結営業利益5億円(前年同期比92.9%増)、連結経常利益5億50百万円(前年同期比81.6%増)、連結当期純利益2億80百万円(前年同期比152.0%増)を見込んでおります。



# 連結財務諸表

## 連結貸借対照表(要約)

(単位:百万円)

科目	期別	前期末		当期末		科目	期別	前期末		当期末	
		平成20年3月31日現在	平成21年3月31日現在	平成20年3月31日現在	平成21年3月31日現在			平成20年3月31日現在	平成21年3月31日現在		
(資産の部)						(負債の部)					
流動資産		8,112	8,634	流動負債		7,749	9,135				
現金及び預金		940	1,482	支払手形及び買掛金		3,097	3,015				
受取手形及び売掛金		4,799	4,583	短期借入金		1,850	3,360				
商品及び製品		1,184	1,302	未払金		1,890	1,890				
仕掛品		225	265	その他		910	869				
原材料及び貯蔵品		491	506								
繰延税金資産		289	288	固定負債		3,319	2,896				
その他		191	214	長期借入金		1,281	755				
貸倒引当金		8	9	退職給付引当金		628	617				
				その他		1,409	1,523				
固定資産		13,891	13,853								
有形固定資産		11,221	11,410	負債合計		11,068	12,032				
建物及び構築物		4,925	5,100								
機械装置及び運搬具		2,005	1,905	(純資産の部)							
土地		4,193	4,193	株主資本		9,145	9,023				
リース資産		-	122	資本金		2,253	2,253				
その他		96	88	資本剰余金		2,322	2,322				
				利益剰余金		4,831	4,741				
無形固定資産		44	109	自己株式		262	293				
				評価・換算差額等		1,748	1,432				
投資その他の資産		2,625	2,333	少数株主持分		42	-				
投資有価証券		1,379	1,151								
繰延税金資産		651	612	純資産合計		10,935	10,455				
その他		958	602								
貸倒引当金		364	33	負債・純資産合計		22,003	22,488				
資産合計		22,003	22,488								

記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。



## 連結損益計算書(要約)

(単位:百万円)

科 目	期 別	前 期	当 期
		平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで	平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで
売 上 高		32,397	31,688
売 上 原 価		22,673	21,444
売 上 総 利 益		9,723	10,243
販売費及び一般管理費		10,104	9,984
営業利益又は営業損失( )		380	259
営 業 外 収 益		266	252
営 業 外 費 用		217	209
経常利益又は経常損失( )		331	302
特 別 利 益		140	88
特 別 損 失		320	89
税金等調整前当期純利益又は 税金等調整前当期純損失( )		511	301
法人税、住民税及び事業税		55	117
法人税等調整額		180	81
少数株主損失		7	7
当期純利益又は当期純損失( )		378	111

記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位:百万円)

	前 期	当 期
	平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで	平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで
営業活動によるキャッシュフロー	1,488	930
投資活動によるキャッシュフロー	534	1,122
財務活動によるキャッシュフロー	773	752
現金及び現金同等物に係る為替差額	0	13
現金及び現金同等物の増減額	182	547
現金及び現金同等物の期首残高	573	895
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	139	-
現金及び現金同等物の期末残高	895	1,442

記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 連結株主資本等変動計算書(要約)

(単位:百万円)

平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで	株 主 資 本					評 価 ・ 換 算 差 額 等					少数株主持分	純資産合計
	資 本 金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損 益	土地再評価 差 額 金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計		
平成20年3月31日残高	2,253	2,322	4,831	262	9,145	70	0	1,664	12	1,748	42	10,935
連結会計年度中の変動額												
剰 余 金 の 配 当			200		200							200
当 期 純 利 益			111		111							111
自 己 株 式 の 取 得				35	35							35
自 己 株 式 の 処 分		0		4	3							3
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額(純額)						287	0		28	316	42	358
連結会計年度中の変動額合計	-	0	89	31	121	287	0	-	28	316	42	479
平成21年3月31日残高	2,253	2,322	4,741	293	9,023	216	-	1,664	15	1,432	-	10,455

記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。



# 個別財務諸表

## 個別貸借対照表(要約)

(単位:百万円)

科目	期別	前期末	当期末	科目	期別	前期末	当期末
		平成20年3月31日現在	平成21年3月31日現在			平成20年3月31日現在	平成21年3月31日現在
(資産の部)				(負債の部)			
流動資産		7,526	7,892	流動負債		7,466	8,795
現金及び預金		507	934	支払手形及び買掛金		3,001	2,960
受取手形及び売掛金		4,679	4,469	短期借入金		1,805	3,315
商品及び製品		1,182	1,300	未払金		1,853	1,820
仕掛品		223	263	その他		805	698
原材料及び貯蔵品		440	446				
繰延税金資産		264	254	固定負債		3,281	2,824
その他		237	233	長期借入金		1,281	755
貸倒引当金		8	9	退職給付引当金		608	600
				その他		1,390	1,468
固定資産		13,014	13,017				
有形固定資産		10,229	10,397	負債合計		10,747	11,619
建物及び構築物		4,349	4,533				
機械及び装置		1,785	1,700				
土地		4,006	4,006				
リース資産		-	73				
その他		88	82	(純資産の部)			
無形固定資産		38	104	株主資本		8,058	7,843
				資本金		2,253	2,253
投資その他の資産		2,745	2,515	資本剰余金		2,321	2,321
投資有価証券		1,379	1,151	利益剰余金		3,745	3,562
繰延税金資産		641	606	自己株式		262	293
その他		1,083	789	評価・換算差額等		1,735	1,447
貸倒引当金		359	31				
資産合計		20,540	20,910	純資産合計		9,793	9,291
				負債・純資産合計		20,540	20,910

記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。





## 個別損益計算書(要約)

(単位:百万円)

科目	期別	前 期	当 期
		平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで	平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで
売上高		30,802	29,873
売上原価		21,405	20,082
売上総利益		9,397	9,791
販売費及び一般管理費		9,826	9,697
営業利益又は営業損失( )		429	93
営業外収益		249	237
営業外費用		213	208
経常利益又は経常損失( )		392	122
特別利益		130	84
特別損失		312	83
税引前当期純利益又は税引前当期純損失( )		574	124
法人税、住民税及び事業税		19	21
法人税等調整額		179	85
当期純利益又は当期純損失( )		414	17

記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 決算ハイライト(業績の推移)

(単位:百万円)

連結決算	前 期	当 期	前期比
	平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで	平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで	
売上高	32,397	31,688	709
営業利益	380	259	639
経常利益	331	302	634
当期純利益	378	111	489
個別決算	前 期	当 期	前期比
	平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで	平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで	
売上高	30,802	29,873	928
営業利益	429	93	523
経常利益	392	122	515
当期純利益	414	17	432

売上高は前年を下回りましたが、前述の利益創出活動とともに、利益流出防止活動を全グループ丸となって行なった結果、連結、個別とも営業利益・経常利益・当期純利益が前期比で大きく回復し、前期の損失から黒字へと変革することができました。

## 個別株主資本等変動計算書(要約)

(単位:百万円)

平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで	株 主 資 本					評 価 ・ 換 算 差 額 等				純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	土地再評価 差額金	評価・換算 差額等合計	
平成20年3月31日残高	2,253	2,321	3,745	262	8,058	70	0	1,664	1,735	9,793
事業年度中の変動額										
剰余金の配当			200		200					200
当期純利益			17		17					17
自己株式の取得				35	35					35
自己株式の処分		0		4	3					3
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額(純額)						287	0		287	287
事業年度中の変動額合計	-	0	183	31	214	287	0	-	287	502
平成21年3月31日残高	2,253	2,321	3,562	293	7,843	216	-	1,664	1,447	9,291

記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。



## トピックス

### “井村屋 アメリカへ進出！”～和と自然の味を生かし世界へ～ 「IMURAYA USA, INC.」



2009年4月、「和と自然の味を食に生かし、グローバル企業への成長を目指す」ことをビジョンに掲げ、アメリカカリフォルニア州に進出いたしました。アメリカにおいて「maeda-en」ブランドの和風アイスクリーム製造を行っている「LA / I.C., INC.」へ第三者割当増資により株式の83.3%を取得し、資本参加。社名を「IMURAYA USA, INC.」として発足いたしました。

今期は、現在の工場において、和風アイスクリームの製造を行い、生産効率を高めながら米国市場への普及を目指します。また、来期の夏頃には同地域において、井村屋の生産技術と品質管理技術を盛り込んだ生産工場を建設予定です。この新工場では、強みである“あずき”を中心とした和風アイスクリーム、冷凍和菓子等の製造・販売を行い、井村屋ブランドを米国市場に展開します。ご期待ください。

### 食品安全マネジメントシステム「ISO22000」の取得

従来より当社製品の品質確保に取り組んでまいりましたが、原料や食品が国を越えてグローバルに移動する現在においては、食の安全確保に対しても消費者の関心がますます高まっています。こうした状況を背景にして2009年1月には、ISO9001のマネジメントシステムを基礎にして「HACCP」の管理手法を取り入れた食品安全マネジメントシステムの国際規格である「ISO22000:2005」を本社・津工場にて認証取得しました。

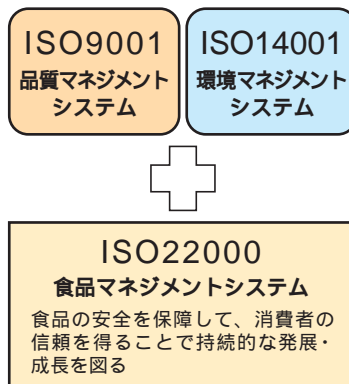
これによって、原材料購入から製造工程、出荷、配送に至る全ての段階における食品安全を追求し、品質及び安全を確保した製品のご提供を、今後も継続してまいります。

#### 「HACCP」

食品製造ライン上の危害要因を分析し、それを最も効率よく管理できる部分を連続的に管理して安全を確保する管理手法

#### 「ISO22000:2005」

食品の安全性を確保するために、食品製造ライン上の危害要因を明確に管理し、継続的にその改善を続けていくための「組織的な仕組み」



(ISO22000認定証)



## “ 皆様に愛され続けて ” ～ 井村屋BOXあずきバー発売30周年 ～

### 井村屋BOXあずきバー発売30周年

皆様に愛され続けて、おかげさまでBOXあずきバーは73期をもって発売30周年を迎えました。  
発売当初から変わらず、あずきの粒感を残した風味豊かなあずきバーです。安定剤、着色料、香料は一切使用しておりませんので、安心してお召し上がりいただけます。  
引き続きご愛顧賜りますようよろしくお願い申し上げます。

### あずきバーの歴史

昭和47年	30円あずきバー発売
昭和54年	BOXあずきバー発売
平成13年	氷温凍結製法を取り入れる
平成18年	最新設備増設。あずきバー年間1億5千万本を売上達成
平成19年	7月1日は井村屋あずきバーの日を制定
平成21年	BOXあずきバー発売30周年



あずきバーシリーズ3品が  
年間2億本を達成しました。

詳しくはウェブにアクセスを。<http://www.imuraya.co.jp/>

## CSR活動：食育活動 “ あずきをもっと好きに！身近に！ ”

2007年度より関東地域に勤務する女性社員を中心に、あずきの啓蒙を目的とした食育活動を行っております。

昨年度は本社工場（三重県津市）で開催されるお客様感謝デーにて「あずきクイズラリー」を実施し、子供達に楽しく簡単に「あずき」について学んでもらいました。また「キッズファミリー企画」におきましても、園児に「あずき」の食育を実施しました。

今後は従来の啓蒙活動に加え、日本の伝統行事を通じて「あずき」を伝えてまいります。昨今、家族がバラバラに食事をする個食が多くなっていますが、「あずき」にまつわる行事・習慣を活性化していくことで、家族が一緒に食卓を囲む機会作りを推進し、「あずき」を通じて和食材の良さを伝えていきます。

日本の様々なあずきの伝統行事食（参考）

- ・毎月1日と15日にはあずきご飯を食べる習慣
- ・1月11日鏡開きでのぜんざい
- ・1月15日小正月の小豆粥
- ・春と秋のお彼岸のおはぎやぼもち
- ・冬至のいとこ煮



（ぜんざい鍋）



## 商品のご案内

### 菓子



3コ入巾着シリーズ  
(左から珈琲ぜんざいゼリー・水ようかん・葛あずき)

北海道産小豆を使用したこだわりの「水ようかん」に創作和スイーツの「葛あずき」、「珈琲ぜんざいゼリー」が仲間に加わりました。

58g ミニようかん  
(左から小倉・煉・抹茶)  
井村屋伝統の技術でじっくり丁寧に煉り上げた一品です。小腹がすいたときにぴったりな食べきりサイズです。



カップ水ようかんギフト  
小豆本来の風味をご堪能いただける井村屋の水ようかん。夏のごあいさつの手土産など色んなシーンでお使いいただける自慢のギフトです。



カステラ長崎  
水あめのなかでも希少価値の高い「もち米あめ」を使用し、風味豊かにしっとり焼き上げた本格派カステラです。

### 食品



お赤飯の素

白米といっしょに炊飯器で炊くだけで粘りのあるつややかな炊き上がりを実現。風味豊かな北海道産小豆を100%使用しています。



ゆであずき  
特6号缶

こだわりの北海道産小豆を100%使用した安全・安心なゆであずきです。小豆の粒感を残してじっくり丁寧に炊き上げました。



朝も寒天習慣  
(りんご・オレンジ)

忙しい朝でも簡単にお召上がりいただける食物繊維たっぷりの寒天デザート。2連パックで家族の健康習慣を応援します。



和風2連パック  
(冷やしぜんざい・水ようかん)

小豆の美味しさを引き出す独自の製法で仕上げた井村屋自慢の和風デザート。食べきりサイズの2連パックです。

### JiAi



野菜ブイオン



野菜ブイオン中華

ノンコレステロールで動物性原料・化学調味料不使用、野菜のうまみだけでつくったブイオンです。昨年仲間に加わった野菜ブイオン中華は7種類の野菜とごまが料理素材を引き立て、奥深い味わいをお楽しみいただけます。



デコプリ(ミルク・カスタード)

牛乳と混ぜるだけでお子様でもつくれるプリンです。ソースでプリンに楽しくお絵かき! お母さんとお子様の楽しいデザートづくりどうぞ。



## デイリーチルド



寒天やわらか仕立て 80kcal  
(左からみかん・コーヒー・ぶどう)

ボリュームたっぷり、やわらかな食感の寒天デザートです。1コあたり80kcalでダイエットにも最適です。



おいしく飲める寒天  
(グレープフルーツ・オレンジ)

食物繊維とビタミンCを手軽に摂れるコンセプトはそのままに、キレのいい甘さと酸味を少し加えてすっきりおいしい味わいにリニューアルしました。



大豆屋和蔵 大豆子

大豆固形分、にがりの量を調整してなめらかさをアップした長期保存可能な豆腐です。大豆の旨みをギュッと閉じ込みました。

## 冷菓



BOXあずきバー  
小豆の風味と粒感をそのまま残した味わいが発売以来根強い支持を受け続ける井村屋人気商品です。



BOXミルク金時バー  
さっぱりした甘さのミルクアイスが、とろみのある柔らかいあんマッチしています。



BOX宇治金時バー  
京都産宇治抹茶のほろ苦さとまろやかなあんの甘さが和風アイスならではの上品なハーモニーを生み出します。

## 肉まん・あんまん



肉まん

あんまん



ピザまん

欧風ビーフカレーまん

素材本来の風味を活かした味わいに仕上げました。手間ひまかけた井村屋の自信作です。

## アンナミラズ・ジュヴォー

アンナミラズはアメリカ東部ペンシルバニアダッチの家庭料理を原点としたアメリカンフードとパイをはじめとするスイーツが気軽に楽しめるレストランです。またジュヴォーは南フランスのプロヴァンス地方に受け継がれてきたお菓子のブランドショップです。2007年4月より本社工場(三重県津市)にアンナミラズ製造部門を移し、2009年5月にはジュヴォーアトリエの同工場移転を完了いたしました。フードサービス事業における本格的な流通商品の開発を実施し、アンナミラズ・ジュヴォー両ブランドを軸とした新しい事業展開を目指していきます。



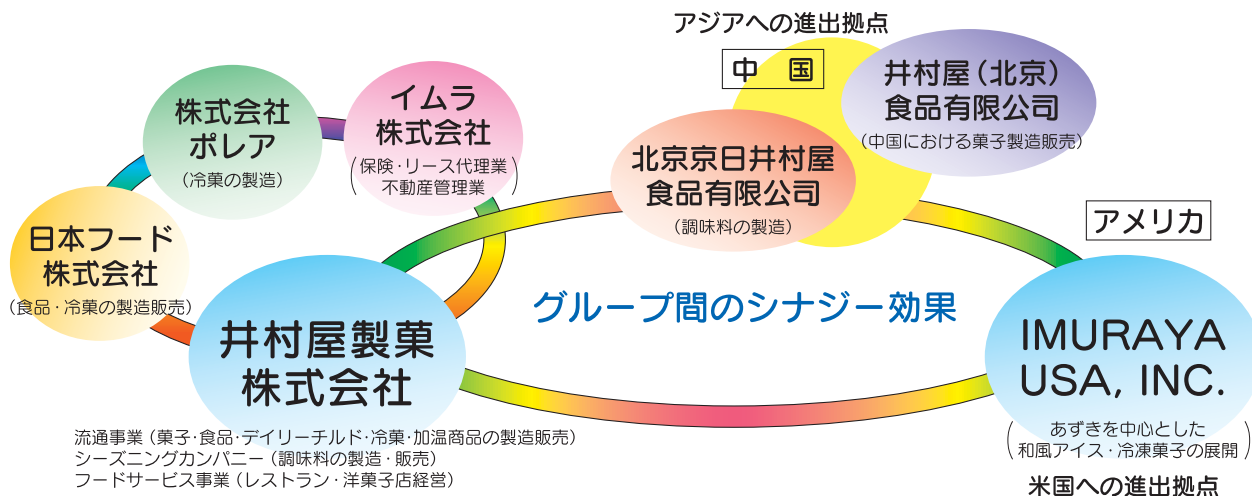
## 調味料

シーズニングカンパニーでは野菜エキス(パウダー)を主体とした天然調味料のおいしさを追求し、業務用調味料の市場を開拓しています。昨今では多様化する顧客ニーズに応えるために、野菜からさらに横広げをした「植物」というカテゴリでの新素材開発に取り組み、新たな商品アイテムとして井村屋の小豆ブランド力を活かした「井村屋こしあんパウダー」、化学調味料無添加を商品コンセプトにした野菜系調理ソース「野菜旨みベース」を商品化し、新市場への参入・開拓に着手しました。従来の粉末果実素材・豆系素材・健康食品素材も非常に高い評価を得ており、今後もさらなる販路拡大を目指していきます。



## 井村屋グループの概要

「日本のお客様」から「世界のお客様」へ



「和」の世界的なニーズの高まりを受けて、  
日本発商品の魅力を海外マーケットに展開し、  
グローバル経営の充実に向けて挑戦していきます。

## “本社 新社屋にて新機能スタート”

2008年11月4日、井村屋製菓では「食と情報とコミュニケーションの創造広場」をメインコンセプトとした「本社新社屋」が機能を開始しました。環境変化に対応した企画・商品・サービスを提供し続ける場所であること。東南海地震などの災害が発生した場合にも従業員の生命を守り、本社機能を維持することでお客様の利益を守ること。お客様とのつながりを基軸に将来にも大きな夢を託すグループ全体のコア・オフィスとなりました。

「新しい革袋には新しい酒を！」の目標に従って、システム、機能、人材すべてに新しい仕組みを創造してまいります。



## 株式の状況

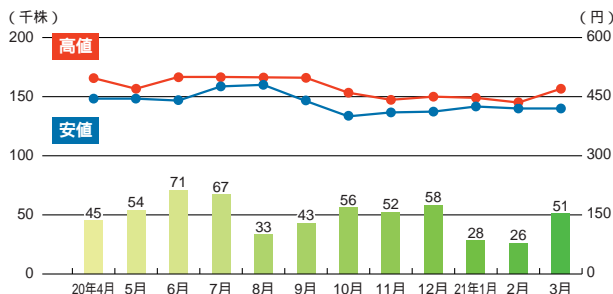
### 大株主一覧(平成21年3月31日現在)

株主名	当社への出資状況	
	持株数(株)	議決権比率(%)
株式会社三菱東京UFJ銀行	1,118,420	4.36
株式会社第三銀行	1,113,200	4.34
株式会社百五銀行	1,054,000	4.11
双日株式会社	965,190	3.76
井村屋取引先持株会	866,709	3.37
服部月松	824,666	3.21
瀬古製粉株式会社	726,152	2.83
株式会社りそな銀行	572,000	2.23
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (中央三井アセット信託銀行再信託分・CMTB エクイティンベストメンツ株式会社信託口)	562,000	2.19
豊田通商株式会社	555,000	2.16

### 株式の状況(平成21年3月31日現在)

会社が発行する株式の総数 100,000,000株  
 発行済株式の総数 25,644,400株  
 自己株式600,782株を含む

### 株価推移表



	20年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	21年1月	2月	3月
高値	497	470	500	500	499	498	460	442	450	447	435	470
安値	445	445	440	476	480	439	400	410	412	425	420	420
出来高	45	54	71	67	33	43	56	52	58	28	26	51

## 会社概要

社名 井村屋製菓株式会社  
 本社所在地 三重県津市高茶屋七丁目1番1号  
 創業 明治29年(1896年)  
 設立 昭和22年(1947年)4月  
 資本金 22億5,390万円  
 従業員数 630名(平成21年3月31日現在)

### 取締役及び監査役(平成21年6月23日現在)

代表取締役社長 浅田 剛夫  
 専務取締役 竹田 節郎  
 専務取締役 山際 博生  
 専務取締役 前山 健  
 常務取締役 村田 清  
 取締役 中島 伸子  
 取締役 落合 英美  
 常任・常勤監査役 大杉 孝洋  
 常勤監査役 大西 邦雄  
 社外監査役 安藤 泰愛  
 社外監査役 土川 禮子

### 執行役員(平成21年6月23日現在)

竹田 節郎 専務取締役 兼 上席執行役員  
 シーズニングカンパニー・フードサービス事業部管掌  
 並びに関連会社(国内)管掌 兼 社長特命事項担当  
 山際 博生 専務取締役 兼 上席執行役員 中国事業代表出向  
 (北京京日井村屋食品有限公司(JIF)董事、  
 井村屋(北京)食品有限公司(IBF)副董事長 兼 総経理)  
 前山 健 専務取締役 兼 上席執行役員 マーチャンダイズグループ長  
 兼 IMURAYA USA, INC. CEO  
 村田 清 常務取締役 兼 上席執行役員 マネジメントグループ長  
 中島 伸子 取締役 兼 上席執行役員 マーケティンググループ長  
 落合 英美 取締役 兼 上席執行役員 日本フード株式会社代表  
 取締役社長(日本フード(株)出向)  
 菅沼 重元 上席執行役員 マネジメントグループ副グループ長  
 兼 内部統制統括室長  
 脇田 元夫 執行役員 総務部長  
 伊藤 宏規 執行役員 IMURAYA USA, INC. 出向  
 (President & COO 兼 CFO)  
 野口 純生 執行役員 マーケティンググループ副グループ長  
 兼 営業サポート部長  
 大西 安樹 執行役員 経営企画統括部長  
 杉浦 正久 執行役員 北京京日井村屋食品有限公司副董事長  
 兼 総経理  
 寺家 正昭 執行役員 財務部長  
 池田 秀治 執行役員 関東支店長



## 冷凍和菓子のご紹介



「和菓子」は保存料不使用で安全・安心。  
自然解凍でおいしく食べられ、レンジと自然解凍でも解凍が可能です。

## あずきを活かした 防災用商品のご紹介

### えいようかん



災害に備えた保存食として最適!!

ご飯軽く一杯分(171kcal)のカロリーを補給できる、  
誰でも安心して食べられるアレルゲンフリーの商品です。

## 井村屋ウェブショップのご紹介



井村屋ウェブショップへのアクセスはこちら  
<http://webshop.imuraya.co.jp>

季節商品を入れ替えながら常時、約100種類の  
井村屋商品を取り扱っております。  
井村屋ウェブショップへのアクセスを心からお待ち  
しております。  
特別な地域・行事に対応したショップです。

## 株主さまへ Information

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
剰余金の配当の基準日	期末配当金につきましては3月31日、中間配当を行う場合は9月30日といたします。
定時株主総会	毎年6月開催
定時株主総会の基準日	3月31日(議決権の基準日)
公告掲載新聞名	日本経済新聞
貸借対照表ならびに損益計算書のホームページアドレス	<a href="http://www.imuraya.co.jp/outline/accounts/index.html">http://www.imuraya.co.jp/outline/accounts/index.html</a>
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第二部 名古屋証券取引所 市場第二部
株主名簿管理人	〒105-8574 東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社 〒460-8685 名古屋市中区栄三丁目15番33号 中央三井信託銀行株式会社 名古屋支店証券代行部
同事務取扱場所	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 電話 0120-78-2031(フリーダイヤル) 中央三井信託銀行株式会社 本店及び全国各支店 日本証券代行株式会社 本店及び全国各支店
郵便物送付先 電話照会先	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご住所の変更、単元未満株式の買取・買増などのお申し出は... 証券会社に口座をお持ちの株主様 口座を開設された証券会社へお申し出ください。 証券会社に口座をお持ちでない株主様 特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行へお申し出ください。</li> <li>・未払配当金のお支払いについては... 株主名簿管理人である中央三井信託銀行へお問い合わせください。</li> </ul>	

注) 必要があるときは、取締役会の決議によりあらかじめ公告して臨時に基準日を定めます。

## 株主さまご優待

毎年3月31日現在及び9月30日現在の  
株主のみなさまに対し、当社製品を以下の  
基準により贈呈。

### 1,000株以上の株主さま

1,500円相当のオリジナル商品



### 3,000株以上の株主さま

3,000株以上の株主さまには1,500円相当の  
オリジナル商品に加えて1,500円相当のギフト商品  
を2種類のなかからひとつお選びいただけます。



この印刷物は環境に配慮した、  
植物性大豆油インキを使用  
しています。

<http://www.imuraya.co.jp>